

1 学校法人河原学園 河原デザイン・アート専門学校

2 学校関係者評価委員会 次第

3
4 日時 令和2年9月29日

5 会場 河原デザイン・アート専門学校

6
7 〈外部委員出席者〉

8 在校生保護者 中田 環 様

9 卒業生 入山 紘香 様

10 企業 株式会社エス・ピー・シー 課長 松下 亮介 様

11 企業 株式会社総合資格 松山支店 山下 健司 様

12 協会 愛媛県建築士事務所協会 理事 宮内 慎 様

13 漫画家 おち R 様

14 高校教諭 伊予農業高校 山本 枝理子 様

15
16 〈事務局〉

17 校長 白石 隆保

18 教頭 露口 武志

19 教務課長 徳永 将規

20 教務 池田 周五郎

21 教務 伊藤 龍平

22 教務 越智 晃浩

23 教務主任 窪田 智一

24 就職キャリア支援センター 室長 富久 重信

25 事務長 永井 亮平

26
27 **1. 学校概要**

28 平成13年4月開校

29 設置学科

30 文化教養専門課程

31 ・デジタルデザイン科(映像系) 46名

32 ・グラフィックデザイン科(商業デザイン系) 59名

33 ・漫画クリエイター科(漫画系) 53名

34 工業関係専門課程

35 ・インテリア・建築デザイン科(インテリア・建築系) 76名

36 ・インテリア・建築専攻科(1年制) 10名

37 ・インテリア・建築研究科(2年制) 14名 在校生数 258名

38

39 **2. 学校関係者評価委員会の目的**

40 この委員会は、文科省が認定する職業実践専門課程の必要要件の一つであり、学校に関係す
41 るそれぞれの立場から意見やアドバイスをもらい、職業実践的な教育の質向上を目指すこと。また、
42 自己評価の評価結果について学校外の関係者による客観的な評価を行い、今回の委員会を通し
43 て、本校の取組みや課題について知って頂き、闊達なご意見を頂く機会を目的としております。

44

45 **3. 学校関係者評価委員会報告書について**

46

47 **2019 年度自己点検項目と評価**

48 **(1) 教育理念・目的・人材育成像**

- 49 ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
 - 50 ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
 - 51 ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想など周知がなされているか
 - 52 ・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づ
53 けられているか
- 54 → 評価：学園の「学是」、「学園理念」、「教育方針」に沿い、「教育理念」、「教育方針」、
55 「指導目標」において育成人材像並びに職業教育の特色が示されている。また、
56 Self control Note（学生手帳）で学生に対して教育理念等を明文化し、周知徹底が
57 図られている。
58 学外に向けては、HP で公表されている。

59

60 **(2) 学校運営**

- 61 ・目的等に沿った運営方針が策定されているか
 - 62 ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか
 - 63 ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機
64 能しているか
 - 65 ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 等
- 66 →評価：本校最高責任者である校長のもと、教頭が学校運営全般の実務責任者として役
67 割を担い、そのもとに教務課、事務局を設置している。全教職員が参加する教職
68 員会議を月 1 回定期的に開催し、学校運営や教育活動等における意思決定機関と
69 している。また、校内教務会議を週 1 回開催し、運営方針に沿った事業計画の実
70 施状況と検証、修正計画の策定を行っている。
71 公印・文書管理簿、物品購入業務等も適切に行われている。
72 文書発信簿、物品在庫管理等は整備が不十分だった点はほぼ改善されたが、さら
73 に徹底していく必要がある。

74

75

76

77 (3) 教育活動

78 ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

79 ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到

80 達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

81 ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

82 ・授業評価の実施・評価体制はあるか

83 ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

84 ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

85 ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

86 →評価：各学科の教育目標、育成人材像に向けたカリキュラム作成・学習プロセスの改善・

87 業界ニーズの取り込み・教員の資質維持や向上に向けた取り組み・教育環境の整

88 備活用等は計画的に進められている。特に、教育課程編成委員会による業界・企

89 業からの意見を取り入れ、企業や地域と連携した活動（別紙「企業と連携した職

90 業実践的な取り組みについて」参照）を複数実施し、職業実践的な学習機会を設け

91 ている。

92

93 (4) 学修成果

94 ・就職率の向上が図られているか

95 ・退学率の低減が図られているか

96 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

97 →評価：在学率、退学率、出席率、卒業・進級率、履修判定試験合格率、資格取得率（コ

98 ア資格・付帯資格）、就職内定率については目標値に対して実績確認ができている。

99 目標値から大きくかけ離れたものはないが、目標値に達していない項目もある。

100 2019年度は、やや退学率が悪化した（P6「休退学状況一覧」参照）。教務全体の

101 組織的な学生指導に加えて、学園本部教務を含めたスクールカウンセラーによる

102 カウンセリングと心療内科、保護者との情報の共有が必要である。

103

104 (5) 学生支援

105 ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか

106 ・学生相談に関する体制は整備されているか

107 ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

108 ・保護者と適切に連携しているか

109 →評価：在校生への経済面（学納金減免、奨学金等）、生活面（学生寮等）、健康面（定期

110 健康診断等）については支援内容が具体的で充実している。また、保護者との連

111 携、卒業生に対する支援も適宜行われている。就職面については、就職希望者分

112 における3月末就職内定率は100%である。また、その支援環境は整っており、

113 教務・就職キャリア支援センターの支援システムが確立され順調に実施されてい

114 る。今後は、さらに各学生の能力に見合い、将来への希望をもった就職ができる

115 ような体制を確立していく。

116

117 (6) 教育環境

118 ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

119 ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を
120 整備しているか

121 ・防災に対する体制は整備されているか

122 →評価：施設・設備等は、設置基準の基準を満たしている。

123 インターンシップ先については、県外企業も含めて連携先を増やし、

124 学生の希望に沿う実習先を手配する必要がある。

125

126 (7) 学生の受入れ募集

127 ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか

128 ・学生募集活動は、適正に行われているか

129 ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか

130 ・学生納付金は妥当なものとなっているか

131 →評価：入学選考のための組織と文書・書類管理については規定通り行われている。また、
132 募集活動については、十分に情報提供が行われている。学納金等は同分野の他校
133 や地域性から判断して妥当な金額と判断する。

134

135 (8) 財務

136 ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

137 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

138 ・財務について会計監査が適正に行われているか

139 ・財務情報公開の体制整備はできているか

140 →評価：消費収支計算書関係比率、貸借対照表関係比率とも、専修学校全国平均を上回る
141 水準で推移しており、問題のない状態である。

142

143 (9) 法令等の遵守

144 ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

145 ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

146 ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

147 ・自己評価結果を公開しているか

148 →評価：学校法人の管理運営は国の定める法規、学校管理運営については学則やその他の
149 規則・規定において定められたとおりである。個人情報の保護については
150 「就業規則」及び「個人情報の保護に関する規則」等が定められ、教職員・学生
151 ・保護者に啓発、周知されている。キャンパス・ハラスメント防止についても
152 就業規則に細かく定められている。

153 ・休退学について

154 露口：休退学実績の報告。微増ではあるが年々悪化している。休退学理由は精神面が一番
155 多い。別室登校の説明、進級卒業できたのが半数。在学生全員を対象に校長による
156 個別面談の実施などの工夫を行い、登校困難者等に対する対応を行っている。

157 山本様：高校もサポートが必要な学生が増えている傾向にある。こまめな面談等は良い対
158 策だと思います。

159 中田様：専門学校は好きなことで進学するというイメージですが、いろいろな学生に対応
160 してきっちりフォローしていただいているということで良い印象を受けました。

161 校長：好きなことだから頑張れというだけではなく、ある程度導いてあげないといけない
162 と感じている。

163 ・就職実績について

164 露口：昨年度は11月末には就職希望者全員内定（124名）

165 <富久による就職関連の補足>

166 昨年度の学園9校実績の報告。797名、44クラスで40クラスが年内就職内定でした。河原
167 デザイン・アート専門学校では傾向としてデザイン3学科は1か月遅れだった。県外を希
168 望する学生もおり、苦勞している部分もある。大学と比べては良くない。

169 コロナの影響で4月、5月活動できていない学生も多かったが、10月末には100%に近い内
170 定獲得になるのではないかと考えている。

171

172 (10) 社会貢献・地域貢献

173 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

174 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

175 →評価：社会や地域に開かれた学校を目指し、校舎や設備などの施設、指導者や学生など
176 の人材といった教育資源を活用した社会貢献・地域貢献、また日頃の学修成果を
177 いかした学生のボランティア活動に積極的に取り組み、社会や地域に貢献できて
178 いる。更に、それぞれの分野特性を生かして、専門領域における社会貢献の
179 機会を設けている（別紙「自己点検・評価報告書」10参照）

180

181 ・デジタルデザイン科の令和元年度実績、令和2年度 of 取組み（予定）の説明（池田）

182 ・グラフィックデザイン科の令和元年度実績、令和2年度 of 取組み（予定）の説明（伊藤）

183 ・漫画クリエイター科の令和元年度実績、令和2年度 of 取組み（予定）の説明（越智）

184 ・インテリア・建築デザイン科の令和元年度実績、令和2年度 of 取組み（予定）の説明
185 （窪田）

186

187 <外部委員の感想・助言・ご意見について>

188 中田様：子供がインテリア・建築デザイン科に在籍しております。高知県林業大学校との
189 取組みについて、モチベーションが上がって頑張っている。いろいろなプロジェ
190 クト取組みをされていて良いことだと思います。

191 入山様：2年前と比べても実践的なことをされていて良いことだと思う。即戦力になれる内
192 容だと思えます。

193 松下様：企業連携の取組み、話題作りにもなり今後も増えていくと思う。弊社に卒業生2
194 名が就業しておりますが、基礎能力がしっかり身につけている。仕事のなことを
195 在学中にやっている成果だと思えます。

196 山下様：全国いろいろな学校と付き合いがあるが、就職率100%はすごいと思う。他校は就
197 職に苦戦しているところも多い。カリキュラムについても年々グレードアップし
198 ている印象、企業連携の成果が出ていると思う。四国内の大学と比べても教育内
199 容・実績ともに素晴らしい。デザイン他学科とも協力できることがあると考えて
200 おります。

201 宮内様：専門領域に踏み込んだ社会貢献・地域貢献をおこなっていて素晴らしいと思う。
202 各学科今後とも続けて行ってほしい、

203 おちR様：卒業生3名アシスタントをしてもらっている。以下2点強化してほしいポイント
204 があり、可能ならカリキュラムに入れてほしい

205 ①作業スピード（現場レベルと比べて遅い）

206 ②チームで漫画を描くこと

207 漫画家は締切りまでに原稿を出さないといけない。各自のスピードアップは必須。
208 時間を計り作業するなどの工夫が必要だと思います。またチームで漫画を描くこ
209 とがないのなら、LINKはチームで作成したほうが良い。

210 自分の苦手な作風を強制してトレーニングしているのか

211 越智：アニメ調等本人が嫌なことを強制はしていない。本人の希望を尊重している。

212 おちR様：トレーニングについて得意分野をどう伸ばすかを考えた方が良い。漫画家にな
213 るには武器・こだわりが必要。

214 山本様：各学科社会貢献・地域貢献がしっかりとできている印象。高校にも活躍が伝わっ
215 ている。特用林産の担任をしているが、今年数人インテリア・建築デザイン科に
216 入学する予定で注目している。専門学校は行動力、実践力があると思えました。
217 企業連携をどんどん行ってほしい。

218

219

以上